

令和元年度 林業関係労働災害一覧 (林業振興課把握)

事例	ページ	発生年月	年齢	性別	災害	工事名	災害状況
1		H31.4	20	男	負傷	竹林伐採	竹林伐採工事を実施中、チェーンソーがキックバックし、左手親指の腹側に刃があたり切創を負った。革製の手袋を装着していた。
2	P1	R1.7	68	男	死亡	立木買取	ケヤキを伐採していたところ、背面にあったカラマツがケヤキに引っ張られ根倒しの状態で、左肩付近を直撃した。このカラマツの下敷きとなった状態で発見され救急搬送されたが、3時間後に死亡が確認された。
3	P1	R1.10	43	男	負傷	搬出間伐	素材を積載したフォワーダ(U-3)をバックで運転中、車体がバランスを崩して、進行方向右側に横転。車体(手すり)と地面の間に右足首約10cm上部を5分ほど挟まれた。
4		R1.12	32	男	負傷	搬出間伐	伐倒方向がずれ、倒した木の間中部が別の伐採木にのってしまった。(両端は接地しているが、中部が弓形にしまった状況。)玉切りをしたところ、勢いよく木が跳ね、被災者にぶつかった。左足靭帯断裂。
5		R1.12	71	男	死亡		二人で作業中、一人は既伐倒木先端の枝伐り作業、もう一人は約20m～30m離れた別の場所で伐倒作業を行っていた。一人が枝伐り作業を行っていたところ、チェーンソーの音が聞こえなくなり、被災者を発見した。
6	P2	R1.12	18	男	負傷		ワイヤをかけた伐採木(スギ全木:長さ不明・直径は30cm程度)を斜面下部に向け、重機で引き寄せていたところ、何らかの原因で伐採木の方向が変わり、引っかかって動かなくなった。被災者がワイヤの取り外しのため伐採木に近づいたところ、何らかの原因で急に丸太が動き出し、これに激突され斜面を転落。顔面骨多発骨折等。
7	P2、3	R2.2	50代	男	負傷	切捨間伐	森林整備(間伐)の作業中(ヘルメット及び防護着は着用していた)、伐採木の処理中に顔面を強打した。
8		R2.2	68	男	死亡	竹林伐採	竹林内でチェーンソーで木を伐採中、樹高約19m、直径35cmの倒木にあたり死亡。
9	P4	R2.3	49	男	負傷	搬出間伐	間伐作業現場において、被災者が単独で樹高20m(元口径20cm)のスギを伐採したところ、伐採木の先端が下方の広葉樹2本の間で挟まり、その反動によって元口が振られた。被災者は伐採後に退避をしていたが、退避方向に振られたため、被災者の右足の脛に激突した。なお、伐倒木には滑落防止のためワイヤーを装着。被災現場は南西向46度の急傾斜地。
10	P4	R2.3	30	男	死亡	太陽光	作業道を重機で移動中に、重機のキャタがゴムでありグリップが効かなかったこと、前日の雨で路面が濡れていたこと、更には、現地土質は赤土であったことに伴い滑りやすかったことにより、重機が転落し、被害者は運転席から投げ出され重機により上半身が潰されたことによると思われる。

令和2年度 林業関係労働災害一覧 (林業振興課把握)

番号	ページ	発生年月	年齢	性別	災害	工事名	災害状況
11		R2.4	48	男	負傷	切捨間伐	伐倒木の下敷きになっていた灌木をチェーンソーで伐った時に、伐った灌木が跳ねて顔面左目の下と左手人差し指を打撲
12	P5	R2.5	72	男	負傷	切捨間伐	伐倒木の玉切り後片付け作業で玉切った材に足をかけたところ材が動きだし重心がかかっていた軸足(右足)をひねったことによる。

13	P5	R2.5	42	男	負傷	皆伐現場	伐倒木の元口を切り直していたところ、チェーンソーのバーが伐採木の下にあった枝等にあたり、被災者側にキックバックし、被災者の左足の親指付け根付近を切傷及び骨折(左母趾挫滅創・左母趾基節骨開放骨折)。(被災者は、事故当時、甲ガードスパイク足袋を着用)
14	P6	R2.5					スイングヤーダを回送中(自走中)に出火し、全焼。 ※定期自主点検は実施済み、型式:日立ZX70BL TW202L(H15導入)
15	P6	R2.6	22	男	負傷	間伐	傾斜20~25度の作業現場で直径28cm樹高約20mのヒノキ(以下、伐倒木という。)を上方へ伐倒していたが、残っていたツルを切り離れたところ伐倒木は積み重なった周囲の伐採木へ倒れこんだ。 伐倒木はそのまま材の上でたわんだ枝の力ではね上がり、回転しながら落下し、退避中の被災者の防護ブーツ付近に根元が当たり、足元をはじかれた被災者は反動で斜面を転がり落ちた。 斜面の下方は傾斜40度あまりと急であり、勢い付いて転がった衝撃で被災者は腰と背中を強打した。
16	P7	R2.8	61	男	負傷	治山事業	被災者は、伐採対象木と近隣木(4本)に蔓が絡まっていることが確認されたため、かかり木になると考え、伐採対象木にワイヤーを巻きつけ、伐採後、重機等で引っ張り、かかり木の処置を行う準備を行った。 その後、対象木の伐採を行い重機で引っ張る作業を行うため、伐採木周辺から避難しようしている途中で、蔓が絡まっていた近隣木(1本)の幹が折れ、周辺木3本と一緒に倒れ、その下敷きとなった。
17	P8	R2.11	55	男	負傷	県民税事業	蔓の繁茂が多いカラマツ林において、蔓絡まりの枯損木の伐倒作業中、蔓による掛り木の処理中に、伐倒木が右足に激突した。安全装具は適切に装着されており、特に甲カード脚絆により、複雑骨折を免れた。
18		R2.11	36	男	負傷	太陽光関係(皆伐)	伐採作業をしていて倒木の下敷きになり、骨盤や肋骨を折る重傷を負ったもの。被災者はベトナム国籍。
19	P9	R2.12	65	男	負傷	国有林	広葉樹(クリ)の伐倒作業中、受口を作り追い口を入れていたところ、立木が裂けて、その裂けた木が被災者の首付近をかすめて(激突)負傷した。
20		R2.12	38	男	負傷	間伐事業(県単)	スギの間伐作業を2名で実施し、スギ(樹高25m、径30cm)を伐倒後、枝払いを行った際、枝によりチェーンソーがキックバックし、はずみで被災者の左足つま先に当たり負傷した。
21		R2.12	64	男	負傷	線下伐採(下請け)	送電線の線下伐採に従事していた被災者は、竹林の伐採(皆伐)後の破碎処理の準備として、伐採竹をチェーンソーで裁断していたところ、伐採した竹が顔面を強打し、左目等を負傷した。 被災者は予めヘルメット及び保護眼鏡を着用していたが、倒れてきた竹幹で保護眼鏡ごとはじかれ、裂傷と出血のため組合の人員輸送車で市内の病院を受診した。
22		R3.2	43	男	負傷	個人委託伐採	チルホールのワイヤーが伐倒木の下敷きになり、それを取り出すため邪魔な枝を除こうとして枝を掴んだところ、折れて勢い余って背中を地面に強打した。その際、刈り払い作業後に出来た灌木の根残り(直径2~3cm程度)が腰の上部に当たり負傷した。
23	P10	R3.2	25	男	負傷		スギの間伐作業で、かかり木となってしまう、そのかかり木が倒れる方向で伐倒作業をしていたところ、かかり木となっていた伐採木(根元径26cm)が倒れてきて被災者の左後方に激突した。
24		R3.3	49	男	負傷	個人委託伐採	被災者は、ラフタークレーン先端部に取りつけたカゴに搭乗し、伐採木に牽引用の台付ワイヤーの取り付け作業を行っていた。 被災状況は、クレーンブームを立ち上げ伐採木へ向かって移動中にカゴが揺れたため、とっさに掴んだカゴと移動方向に伸びていた直径10cm位の枝に右手中指を挟まれ第一関節先端を切断(骨に達していない模様。指先肉片部)

25	P11	R3.3	40	男	負傷	切捨間伐 (市町村補助)	ヒノキ切り捨て間伐作業で、下方に向け伐採したヒノキ(胸高直径20cm)が隣接するヒノキにかかり木となった。かかり木処理のため、つる(切り残し)を切り離した際に、元口部が根株から外れ、地面に落下しそのまま急傾斜面を滑落した。 被災者は、横方向に待避したが、滑落していく伐採木の先端付近の枝に強打され被災。被災者は痛みにより歩けない状態であったことから、防災ヘリにより救助病院へ搬送となった。
----	-----	------	----	---	----	-----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

令和3年度 林業関係労働災害一覧 (林業振興課把握)

番号	ページ	発生年月	年齢	性別	災害	工事名	災害状況
26	P11	R3.5	55	男	負傷	搬出間伐	搬出間伐のため、作業班3名で作業。被災者はチェーンソーによる伐倒、枝払いを担当。被災者が枝払い作業中に チェーンソーがキックバック を起こし、左頬を負傷。タオルで止血しながら同僚と車で事務所に戻り、病院へ向かい、20針の縫合。 一瞬のことで、何が起きたかわからない状況で、気がついたらケガをしていたとのこと。 ヘルメットは被っていたものの、 バイザーは下ろしていなかった。
27		R3.7	25	男	負傷	測量	測量作業中に、 クマ に襲われ負傷。 作業員二人で測量作業を実施。作業員一人は刈払いを実施、その約10m程度離れたところで被災者は、GPSの測量中を行っていた。 被災者は、GPS測位中、10m位離れたところのクマが視界に入ってきた。クマが来たら蹴り飛ばそうと思いついたが、クマは直ぐに発見した位置辺りから走って突進してきて、ぶちかまされた後、2m位吹っ飛ばされた。 ヘルメット(ハスクバーナ製)はフェイスガードとイヤマフ付きのモノで、後ほど現地に物品等の回収に行って確認したところ、どちらも取れていて、フェイスガードやヘルメット本体には爪痕が残っていた(引っ掻き傷や刺したような跡3か所ほど)怪我は、顔と手・腕で、左の頬は横方向に裂かれ、左の鼻の穴に爪を差し込まれ、爪が突き出て貫通してできた様に鼻の左側が裂けていた。小鼻の辺りで皮一枚繋がっていた。右肩と両手手のひらを咬まれ、左の中指は骨折した。
28	P12	R3.9	44	男	負傷	切捨間伐	スギの切捨間伐を行っていて、伐倒木(胸高直径30cm位)が立木4本の間に入るところに入った。先端から4m程の所を玉切った際、切口が裂け左足膝下に当たり負傷した。 ヘルメット、防護ズボン、鉄心入り地下足袋、防振手袋は装着していた。
29		R3.10	67	男	負傷	広葉樹 支障木伐採	組合員からの委託を受けチェーンソーにより所有林内の広葉樹の支障木伐採を作業員5名で行っていたところ、キイロスズメバチに左足の脹ら脛1か所を刺された。 早急にポイズンリムーバーで吸引し、その後医者にて手当て。 作業林内においてハチの巣があったことで、伐採作業前、業者によりハチの巣は撤去されていたが、数匹のキイロスズメバチが飛来していたことに注意すべきだった。
30	P12	R3.11	56	男	負傷	地拵え	伐採跡地で苗木を植え付けるための準備作業(枝条等の整理)を実施していた。作業の支障となる広葉樹灌木をチェーンソーで切断処理していたところ、枝もしくは木片が飛来し、左目に当たり被災した。

31		R3.11	78	男	死亡	皆伐現場	<p>林業現場での転倒が原因による死亡事故。 被災者はチェーンソーとチルホールで1本を伐倒し、次の木を伐倒する準備の途中で転倒したとのこと(被災者本人談) 被災者は、転倒後も作業を継続し、夕方(17時頃)車で自宅に戻ってきたところ、現場で転倒し、頭を打って一時気を失っていたとの話があり、家族が病院に行くことを勧めたが、そのときは病院に行かず、夜になって容態が急変し、救急搬送された。 検査の結果、脳内出血が認められ、入院。翌日に危篤状態となり、11:05に死亡。</p>
32	P13	R3.11	46	男	負傷	切捨間伐(除伐)	<p>ヒノキ(胸高直径14cm根曲がり材)を伐倒する為、地際から15cmの高さに受口、反対側に追口を入れ、更に地際から60cmの高さに受口、反対側に追口を入れ、手により斜面下方へ倒すところ、体が何かに引っ掛かり体がねじれて、手が地際60cmの高さの受口に、左人差し指を挟まれ負傷してしまった。</p>
33		R4.1	67	男	負傷	間伐(県有林)	<p>保育間伐作業を作業員7名で行っていた。現場は急斜面で積雪・地盤凍結であることからアイゼンを着用。作業中、足を取られ転倒し右肩脱臼。</p>
34	P14	R4.2	34	男	負傷	切捨間伐(本数調整伐)	<p>本数調整伐の伐採作業中に発生したかかり木(12cm~18cm)の処理のため、かかった木の上部に受け口を切り、手で倒伏をおこなったところ、受け口に左手人差し指を挟んだ。</p>
35		R4.3	21	男	負傷	切捨間伐(条件不利地)	<p>木を伐採するため移動していたところ、地面にあった枝がチェーンソーブーツの紐に絡まり、足をとられて転倒し、転倒した先にあった玉切り木に右胸を強打した。 チェーンソーブーツの紐はしっかり結んでいたが、枝がチェーンソーブーツの紐部分に入り転倒した。</p>

令和4年度 林業関係労働災害一覧 (林業振興課把握)

番号	ページ	発生年月	年齢	性別	災害	工事名	災害状況
36	P15、16	R4.4	59	男	負傷	切捨間伐(条件不利地)	<p>周辺状況から、かかり木になる可能性が高いため、折り切りを行うこととした。上段の受口・追口を切り終え、下段の受口を切り、追口を切り始めたところ伐倒木の先端が強風に煽られ上段の切り口のツルが外れ、チェーンソーのハンドルを握っていた小指付近(手の甲側)に落下し挟んだ。</p>
37	P16、17	R4.5	50	男	死亡	民間 広葉樹伐採	<p>クリの木(樹高約9m、直径約28cm)伐採時に下敷きになり死亡。</p>
38	P18	R4.6	60	男	負傷	切捨間伐(条件不利地)	<p>根むくれにより傾斜していたニセアカシアを伐倒したところ、かかり木となった。元玉伐を行ったが、解消されず、状況を確認しようと近づいたところ、かかり木が落下。 顔面に激突、落下した木と地面の間に挟まれた。その後、自力で脱出、同僚に助けを求め、チェーンソー等を持って下山。駐車場から森林組合事務所に連絡後、組合の車で病院へ向かい、緊急外来を受診、顔面及び肋骨骨折で入院治療となった。</p>
39		R4.6	70	男	負傷		<p>山林内で伐採作業中に、長さ20m、直径25cmの伐採木が左足首にぶつかり、左足首を骨折した。</p>
40		R4.9	32	男	負傷	特殊伐採	<p>山林内で高さ約17mのスギをクレーンでつり下げながら伐採を行っていた際に、高さ6~7m付近から落下し、腰の骨を折る重傷を負った。</p>

41		R4.9	74	男	負傷	市町村提案型	山林で草刈り作業をしている際に、高さ約3.3mの擁壁から転落、首の骨を折る重傷。
42		R4.10	21	男	負傷	皆伐現場	現場は約13haの皆伐作業を4名にて従事。被災者は胸高直径約40cm、樹高約20mの桜を山側に伐採作業中、伐採した木が跳ね上がり被災者に接触し、段下約4mの斜面を滑落した。 その際チェーンソーを握っていたため、滑落途中チェーンソーが左腕にあたり切傷した。
43		R4.10	52	男	負傷		作業道作成の先行伐採で、斜面下部へ移動中、足元が岩場だったため転倒し、右手首を負傷(右手関節内骨折、橈骨(とうこつ)遠位端骨折)した。
44		R4.11	32	男	負傷		あらかじめ伐倒しておいた60年生の太さ約44cmほどの杉を傾斜10度未満の作業道でチェーンソーを使用し造材を行っていたところ、前傾姿勢が続いている作業のため体勢を変えようとした際、何らかの原因でバランスを崩し腰のあたりをひねったことで腰を痛めた。
45		R5.1	48	男	負傷	保安林改良 (改植・獣害防止)	午前10時の休憩中、木に立てかけていたバールが倒れてきて、座って休憩していた被災者の頭部に直撃し、裂傷を負った。その後、同僚に止血をしてもらい病院を受診し治療を受ける。
46		R5.1	27	男	負傷	皆伐現場	作業終了後、車に戻る途中、雪で足を滑らせて20m位滑落。動きを止めようと右手で立木をつかんだ際に受傷。その後、一緒に行動していた同僚とともに車まで戻り、森林組合事務所に連絡後、車で病院へ向かい受診、右肩の骨折で通院治療となった。
47		R5.2	60	男	負傷		田畑の日陰解消のため、田畑沿いの樹木を伐採(地域の集落組合からの委託)。5名で作業中、一人が直径25cm、樹高17mのコナラを伐採し、重機で倒したところ、下で作業していた作業員が木の下敷きとなった。作業員は、左腕と脊椎の骨折、肺圧迫で重傷。
48		R5.2	50	男	負傷	保育間伐 県外の事例	伐採箇所は県外となるが、素材生産業者の所在地は県内。 間伐作業で山側に傾いたヒノキを受け口を山側に作り伐倒した(上方伐倒)。伐倒方向には岩が出っ張っており、伐倒木がその岩に当たり、残っていたツルが切れ、切り口が谷川に滑り落ちた。作業員は退避したが、右足が避けきれずに当たってしまい右足首を負傷した。
49	P19	R5.2	21	男	負傷	切捨間伐 (条件不利地)	作業現場にて移動の際に誤って足を滑らせ滑落した。現場は急斜面な上日影で雪も少しあったことから、50m程度滑落し、右目上を裂傷し、左脇腹と腰が痛くて動けないことから、救急隊(防災ヘリ)により病院へ救急搬送された。
50		R5.3	36	男	負傷	切捨間伐 (条件不利地)	被災者は35度の傾斜のスギ林で間伐作業を行っていた。 斜面に対し横向き(左が山側)で枝払い作業中、右足下の石が突然動いたためバランスを崩し左に転倒し、左肘を付いた時にチェーンソーから左手が離れてしまい、ソーチェーンに左手中指先端が当たり負傷した(ソーチェーンは惰性で回っている状態、被災者は防振手袋を装着)。

51	P20	R5.3	69	男	死亡	<p>約40度の傾斜での伐採作業。 作業員A、B、Cの3名での伐採作業を実施。作業員Aはチェーンソーによる伐採を担当。作業員Bは作業員Aの補助(追口にクサビを打つ役)として、作業員Cは重機で伐採木を集材する担当。 伐採木はスギで隣接するケヤキに立木の状態で枝が絡まっている状態であった。まず、作業員Aは作業員Bに避難指示をした後、チェーンソーで根元近くを鋸断し、伐採木を根株から切り離した。切り離した根元は付近の根株に引っかかり止まり、かかり木の状態となった。 その後作業員Aがかかり木処理のため、根元よりも高い位置へ受け口と追い口を入れ(折り伐り)た際に伐採木が山側へ倒れ、作業員Aと作業員Aの上方で退避していた作業員Bが伐採木の下敷きとなった。 作業員Aは枝が激突し転倒。作業員Bは病院に搬送されたが死亡が確認された。</p>
----	-----	------	----	---	----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

令和5年度 林業関係労働災害一覧 (林業振興課把握)

番号	ページ	発生年月	年齢	性別	災害	工事名	災害状況
52	P21	R5.4	46	男	負傷	切捨間伐 (条件不利地)	2本の木に挟まれ、しなっていた状態の伐倒木を玉切したところ、切りきった瞬間に想定以上に応力が働き、チェーンソーごととはじかれ、ヘルメットのフェイスガードを破り顔面に当たった。
53	P21	R5.5	20	女	負傷		傾斜角20度程度の山林内で集木作業中、同僚3人で作業をし同僚の1人が荷掛けを終え合図をし作業員に周知させ同僚と被災者が退避を行ったが、 退避をした左上斜面に浮石があり左手で触れた際、約20cmほどの浮石が外れ地面に接地していた右手の薬指に落下し被災した 。
54	P22	R5.6	33	男	負傷	伐倒作業 (保育間伐)	保育間伐の伐倒作業中、カラマツ(胸高直径22cm樹高20m)をクサビを使用し、谷側に倒そうとしたが、重心が山側に傾いていたため、真横に倒れ、かかり木となった。 かかり木処理を行うため、禁止行為である元玉切り (切り口から120cm)したところ、玉切った端材が伐倒木に挟まったため、端材を右足で蹴って取り除こうとしたところ、伐倒木が傾き端材と伐倒木に右足が挟まり受傷した。
55	P22	R5.6	65	男	負傷	切捨間伐 (条件不利地)	立木を伐倒後、玉切りを行うため伐倒した木を跨ぎ、下流側へ移動しようとしたところ、 足を滑らせ転倒し背中を伐倒木に強打した もの。
56	P23	R5.6	26	男	負傷	間伐作業	傾斜約20度程度の山林内で班長と2人で切り捨て間伐の作業中、伐倒木(直径20cm程度)の玉切り作業を行っていたところ、 玉切った木が裂けて回転し、左膝に接触し被災した 。
57		R5.9	49	男	負傷	刈払い	刈払機での草刈作業中、目視では確認できなかった錆びた釘状の 金属が刈払機の刃と接触し、跳ね返り作業者の右ふくらはぎ内側に刺さり負傷した もの。
58	P23	R5.9	22	男	負傷	測量作業	休憩後、地面に下ろした 腰用具を装着しようとして手を伸ばしたところ、左手薬指を蛇に噛まれた 。蛇の種類は不明であったため、その後測量作業に従事していたが、左手の腫れの悪化と気分が悪くなったため下山し、病院を受診した結果、マムシと判明。
59	P24	R5.10	29	男	負傷	間伐作業の刈払い (条件不利地)	斜面で刈払い作業中に、 足を滑らし倒木に左膝をぶつけた もの。

60	P24	R5.11	22	男	負傷	皆伐作業	皆伐現場で、集材木の枝払いをしていた際に、枝払いをしていた材の下敷きになっていた枝が跳ねてチェーンソーバーの先端部に当たってしまい、キックバックが起き左足甲部分に刃が当たったもの。甲ガード付きスパイク地下足袋を着用していたが負傷した。
61	P25	R5.11	54	男	負傷	造林 (地拵え)	グラップル付きバックホウを運転し、地表にある枝条を集積していた。レーキに何か引っかかり、それを外そうと操作していたところ、引っかかりが外れた反動でバックホウの履帯が作業道から脱輪し路肩が崩れ、斜面下方(約10m)に転落したものの。
62		R5.11	21	男	負傷	間伐作業	休憩のため伐倒作業現場から休憩場所へ向けて移動中、高さ1.7m下の作業道へ後ろ向きで降りようとした際に、足をかけた箇所が不安定であったため足元が滑り、作業道上にあった転石(直径40cm)に右足が接地し、足首を捻ったもの。